



ツアーでの挑戦 2

先日、愛用のMacbookProが故障するという事態が起きました。それは何の前振りもなく起こったのです。電源ボタンを押すと、普通はアップルのマークが出てきますが、代わりにクエッションマークが出てきたのです。今まで、愛情たっぷり注いできたラップトップが、こんな不可解な症状を見せたので、とても焦りました。それはまるで、ずっと仲良かった子に「え？あなた誰？」と言われたようなものです。今までの記憶がすべて失われたのではないかと、とても不安になりました。バックアップを怠っていた報いが今、まさに降りかかってくるのが目に見えました。ツアーのデザインをほかの劇場用書きかえなければいけない週に、そんなことが起こってしまったのです。

普段、ベクターワークス(VW)でプランを書くのですが、カンパニーや、劇場にそのプランを提出するときは、PDFに起こして送信します。ずっと前に、知り合いの照明家の方からこのように言われました。「デザインはもちろん、時間をかけて作成したレイヤーやオブジェクトを無料で手渡すのは、自分次第だけど、基本はPDFで送って、オリジナルの制作ファイルは自分でキープするのが無難だよ。」と。著作権などあまり気にしていない自分ですが、

いろいろな悪い話も耳にしていたので、PDFのみで送るようにしていました。

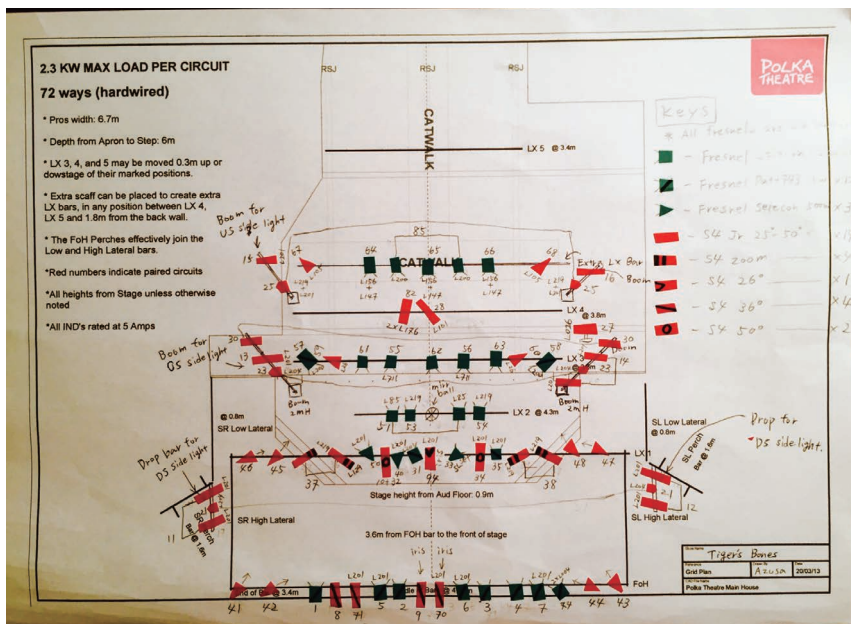
そのような理由から、VWのオリジナルファイルを誰にも送っていなかったため、メールボックスからダウンロードすることもできません。VWをもっている同僚たちはツアーに出ていて、彼らのコンピューターをかりることもできない。しょうがない、手書きでやるか。ステンシルもないので、PVCテープで作成しようと思いつきました。何種類かの色のPVCテープを、2~3mmの灯体の形にカットし、劇場の照明サスのプランに貼り付けていく、内職的作業に取り掛かりました。

ピンセットとハサミで、角度を計りながら、ああでもない、こうでもない、貼っては動かす作業は、まるで伝統工芸師のようで、意外と夢中になれる作業でした。こんなガタガタのプランでお恥ずかしい限りです…。幸い、次に行く劇場は、過去に何度か働いたことがあり、知り合いも何名か働いているので、こんなプランでも受け入れてもらえました。送った次の日に「あの変なマークはなんだ？今日吊り込んであげると、連絡ちょうだいね。」と連絡がありました。場合にもよりますが、イギリスの劇場はスケジュールが合え

ば、ツアープロダクションのために、前もって吊り込み(Pre-rigging)をしておいてくれる劇場がいくつもあります。特に乗り打ちのツアーにとっては、大変助かることです。日本でもそうなのではないでしょうか？それでも、現場に到着してからの微調整はつきものです。

劇場によって、サスの高さ / 幅、サスの位置、SSが置ける場所が限られてくることはもちろんあります。前もって劇場視察ができるときは、できる限りしますが、できないときは、現場で柔軟に対応するしかありません。照明デザイナーは普通、ツアーには一緒に回らないので(重要な劇場のみ参加)、リライター(照明チーフ)がデザインをきちんと理解したうえで、現場で対応策を考えるといった形です。

ツアーの照明で肝心なのは、どんなサイズや形の劇場でも、いかにオリジナルに近づけ、クオリティーを保てるかだと思います。信頼できるリライターを専属でもつことは、照明家にとっては理想ですが、現実はそのもいきません。人を選ばなくても、再現可能な照明プランをかける、つまりすべて精密に計算/表記された照明プランを書かなければいけないというタスクは、みなさんおもちなのではないでしょうか。



PVCテープ照明プラン

そのためにも、3Dで照明アングルや距離を計算したり、劇場の写真に基づき、プランを書き起こすという作業は重要になってきます。極稀に、ツアー照明チーフから電話がかかってくる。「あのキーライトが、あの角度で当てられないのだけど、どうしましょう。」そんな電話があると、『自分はまだまだだな』と自覚させられます。



Tiger's Bones 公演ツアー